

そして長引けば長引くほど、世界的に武器・弾薬・兵器が枯渇するのです。
今世界的に武器・兵器が底をついて不足しているんですね。西側の兵器はどんどんウクライナに行き、ロシアもイランや中東の某国・北朝鮮からも武器・弾薬を取り寄せようとしています。

こんな状態が続くと、「明日は我が身か」と思っている国々はどう考えるでしょうか。
少なくとも自衛力を身に着けるため、武器・弾薬・兵器を準備しなければならないということで、これから世界的に軍備拡張時代がやって来ます。
既に、第二次世界大戦の敗戦国ドイツは、国防費を GDP1%から 2~3%にすると書いてます。

敗戦国日本も GDP2%までにすると宣言したのですが、ところがですよ、日本の国防費倍増計画に断固抵抗する勢力が、なんと日本国内にあるんです。どこだと思いませんか。財務省です。財務省主計局。これは国家予算の企画・立案をするセクションで、日本の官僚組織の中で最強です。予算握っているところが一番強いのは、どこの国でも同じですね。

財務省が今何をしようとしているのか。
防衛費を純粹に倍増するのではなく、防衛予算を見かけ上膨らませ、倍増したかのように見せかけて切り抜けようとしているのです。
具体的な案は、海上保安庁の予算を防衛予算に編入することによって、防衛予算がブワッと増えた見えるようにしつらえる。その案の方に向かってどんどん進んで行っています。

海上保安庁は海の警察で、国土交通省の外局として造られている組織です。
海難事故で救出するとか、海上での犯罪の取り締まり、犯人逮捕を行う海の警察ですよ。
英語で Coast Guard/コースト・ガード。

財務省の言い分・論理はこうです。
「NATO ではコースト・ガードの予算は国防費に編入されている。欧米のそのスタンダードに則って、日本が海上保安庁の予算を国防費に編入するのは、何もおかしいことではない。」

しかし、これにはからくりがあります。
欧米のコースト・ガードは、一旦戦争が始まったら軍の編成下に入って軍事活動をするんです。
ところが、日本の海上保安庁はそれができない組織なんですね。
海上保安庁法という法律の 25 条。“海上保安庁は軍組織の営みを禁じる”。
いざとなっても、自衛隊の指揮下に入って軍事行動をすることが禁じられている組織。
全く別組織なんですね。

私は、これはおかしいことだと思いますね。いざ戦争になったら、国民の生命・財産を守るために国力を最も有効に、フルに活用することが一番大事ではありませんか。
外国から敵が来た時、それを押し戻すために国力を防衛に特化して、そこに注力することは当然だと思います。

自民党政府の中でも、25 条を改正してそれができるようにしようと頑張ったのですが、できませんでした。反対する人がいたんです。公明党ですよ。
結局、いざという時、海上保安庁の船を防衛のために使うことはできない。持ってても使えない。

自分の手を自分で縛っている状態にしている。これはおかしいことだと思います。

それはそれとして、海上保安庁の予算 2600 億円を防衛費に編入することによって、「防衛費が 2600 億円も増えた。だから GDP の 2 倍に向かって着実に進んでいる。」

純粋倍増ではなく、統計上お金がたくさん振り込まれたように見せかけるというトリックで、純増を押しさえようとしているわけなんですね。

なぜ財務省はそんなことをするのか。

実は財務省が最も大事だと考えているのは、プライマリーバランスの均等化なんです。

税収と政策費など支出がありますが、日本は借金経営なんですよ。

「借金で借金を返しながらか、税金を様々な政策費に充てる。税金だけで政策費用を賄えないので、政策費用も借金でやっている。こんな事をやっていたら借金のツケを子孫に回すことになる。」

だけど、その借金、だれに借りてるんですか。外国じゃなくて国民じゃないですか。

国民にまた戻って来るのですから、これはおかしい論理だと思いますよ。

とにかく、プライマリーバランスをちゃんとする。これが最も大事だと考えているので、そのためには支出を減らさなければならない。それで、国防費を削ることも当然だと思っているようです。しかし、プライマリーバランスを取っても、その結果日本が戦争に巻き込まれ、あるいは攻め込まれた時に、どうにも出来ないで減ってしまったら、何のためのプライマリーバランスなんですか。

昔 黒澤明監督が『七人の侍』という映画を撮りましたね。私は東京世田谷区の経堂（きょうどう）キリスト集会に行った時、散歩で東宝のスタジオまで行ったんです。

大きな玄関に『七人の侍』の写真を掲げていて、懐かしく見ました。

野武士に狙われている村があって、村人は野武士に勝てない。

そこで、用心棒・防衛力として 7 人の侍を雇うことにしますが、反対論が出て来るんです。

「村に 7 人も侍が入ったら、ウチには若い娘がいるから何かされるんじゃないかと心配だ。そんなこと、しないほうがいいんじゃないか。」村長に訴えるわけですね。

村長はひと言「野武士が来るんだぞ。首が危ない時に、髭の心配してどうするんだ！」名文句！

私はこれをそっくりそのまま、財務省主計局に返したい。

プライマリーバランスを守って、国が減びて、どうするんですか。

アメリカのシンクタンク 戦略国際問題研究所が、“台湾を巡って 2026 年に米中戦争が勃発する” という前提で図上演習をしました。24 通りの場面を想定した内の 21 通りが完了し、今年 12 月にその演習結果の発表があります。私はその論文を読むのをとても楽しみにしてるんです。

演習の結果、ほとんどのケースでアメリカ・台湾連合が中国に勝ちます。中国は台湾占領できない。アメリカは在日米軍基地や台湾の防衛力で総合的に戦い、台湾を中国から守ることができます。守るんだ。守り切れるんだ。そんな結果が出ています。

しかし同時に、この戦争はアメリカと台湾に凄まじい国力消耗を強いることになる。そのために、アメリカは長期間にわたって国際社会における地位を損なうことになる、という結果も出ています。

この結果は、もちろん日本にも返って来ますよ。この戦争の一番の補給口となるのは日本です。だから、日本も相当な国力消耗をすることを覚悟しなければならないのです。

結論は、どんなに大きな予算をつぎ込んでも、そのほうが大戦争を実際に戦うよりも安全で安くつく、ということです。戦争するための軍備ではない。

戦争を起こさせないための軍備。戦争を未然に防ぐための軍備なんですよ。

戦争を防いで無駄な血を流さずに済むならば、それは最高の福祉とも言えるのではありませんか。

日本国民全員が享受できる平和・安全を守っていくことは福祉と言えます。

なので、財務省のまやかしに押し戻されることなく、岸田政権には毅然たる態度で国防費 GDP2% に向かって突き進んでいただきたいと思います。

国民は声を上げてこれを後押しし、岸田総理の発奮を待ちたいと思います。

今日は国際情勢を解説しましたが、年末まで世界は動いています。

折に触れてこのシリーズを上げて行きますので、よろしければお付き合い下さい。

チャンネル登録もお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。

皆さん、お元気でいてください。さよなら！